

2007.03.24.
新潟県立阿賀野高等学校
佐藤 久 (JF0FDT)

高文連準備会議 (ARDF 大会関係) 資料

【各地の高校大会について】

高校独自での大会開催が難しい地域(神奈川、静岡、茨城以外)は、既存の大会 (J A R L 主催・公認大会) にあわせて開催する方法をとってきました。これは高校生が参加する各地の大会事務局に連絡をとり、「高校大会」を兼ねて開催していただくというものです。ただし高校大会としての要項や表彰状発行は準備会が行っています。

この方式を取り入れてから 3 年になりますが、各地の一般 ARDF グループからも高校生の参加を喜んでいただいている。引き続きこの方法を続けていきたいと考えています。

昨年の実績は以下のとおりです。

群馬県大会(4/9)	→ 北関東東北地区予選
下野の国(栃木県)大会(4/16)	→ 東関東地区予選
奈良県大会(5/5)	→ 関西地区予選
長野県大会(6/10)	→ 中部地区予選
新潟県大会(6/25)	→ 東日本地区予選
かごしま(鹿児島県)大会(7/16)	→ 南九州地区予選
茨城県大会(11/23)	→ 秋季東関東大会

【第3回全国高等学校 A R D F 競技大会について】

主 催	高等学校文化連盟アマチュア無線専門部設立準備会
主 管	(社) 日本アマチュア無線連盟 新潟県支部 水原アマチュア無線クラブ (J A φ Y N D) A R D F 新潟クラブ
後 援	(社)日本アマチュア無線連盟 阿賀野市、阿賀野市教育委員会 茨城県高等学校文化連盟
協 賛	総務省 情報通信月間推進協議会 (有)ヤスダヨーグルト 三国コカコーラ(株) アイコム(株)
大 会 支 援	平成18年7月29日(土) ~ 31日(月)
月 日	新潟県阿賀野市「五頭連峰少年自然の家」周辺
場 所	参 加 者 高校生 111名 (20校) 一般参加 17名

日 程	
29日(土)	13:00 ~ 集合・受付・開会式
	14:00 ~ 分科会
	• 3.5M 帯競技
	• 144M 帯初心者
	• 沢登り
	20:00 ~ 開会式、144M 帯競技説明

31日(日)	8:30 ~ 12:00 144M 競技
	14:00 ~ 16:30 交流会(沢登り)
	19:00 ~ 表彰式・閉会式・懇親会
1日(月)	8:00 ~ 清掃・後片付け、解散

(全日程を通して J Q 1 Y KM/0 の運用)

詳細は、全国高文連無線部準備会の HP に掲載されています。

<http://www.ishitani.com/zenkok-ama>

◆分科会について

近年の 3.5MHz 帯競技の普及や、9 月に開催される世界大会@ブルガリアに出場する選手の練習も兼ねてミニ大会としました。

ただし受信機のない選手も多いため、同時進行で 144MHz 帯競技の講習会も開きました。

① 3.5MHz 帯競技について

午後からの短い時間ですので TX を 3 個による競技としました。

受信機は様々で、初心者向けの PJ-80(中国製キット)から、静岡の高校で普及している群馬の柴田さん製作の受信機までいろいろなものが見られました。

優勝 学校対抗の部 JI2ZHI 静岡県立御殿場高等学校
個人男子の部 伊藤遼河 (静岡県立浜松湖東高等学校)
個人女子の部 牧野友花 (秋田県立能代高等学校)

② 144MHz 帯競技講習会について

大会経験の少ない選手も多かったので受信機の使い方から A R D F 競技のルール、そして実際の大会の流れやそのノウハウ等を説明しました。また大まかな説明の後は実際の受信機操作も行いました。

◆ J Q 1 Y KM/φ の運用について

今年度取得して準備会のコールサインを使って生徒による運用が行われました。特に日程には組み入れなかったのですが、それぞれに空いた時間を工夫して無線機に向かいました。

◆開会式について

夕方到着の学校もありましたので、開会式を夕食後に行いました。

浜松湖東高校による昨年度の優勝杯返還があり、翌日の 144MHz 帯競技の説明の後、参加校ごとに学校紹介がありました。

◆ 144MHz 帯競技について

昨年同市で Reg.3 大会(アジア・オーストラリア地区大会)が開催されました。せっかくの国際大会でしたので、実際に各国の代表選手が走ったエリアを生徒に体験してもらおうということとなり、このエリアをつかい、スタート・ゴールもあえて同じ施設を使いました。ただしそのままでは難易度が高すぎるため、若干の設定を変え、給水ポイントなどのヒントも加えてアレンジを加えました。

JARL の公式ルールでは 4 個の TX を探索することとなっていますが、ローカルルールとして 5 個全てを探索する設定としました。

参加人数の関係から、スタートは 5 ~ 6 名づつ 22 組に分かれ約 2 時間にわたってのスタートとなりました。見通しのきかぬ山間部のエリアでほとんどの選手はバラけてしまい、まさに受信機と自分が頼りとなる大会となりました。

結果、設定者の予想以上に難易度が高く、タイムオーバーによる失格者が多くでてしましました。

優勝 学校対抗の部 JH1YWJ 茨城県立総和工業高等学校
個人男子の部 井口貴文 (静岡県立浜松工業高等学校)
個人女子の部 J03JWW 菊一初美 (奈良育英高等学校)

◆高校交流会「沢登り」

毎年恒例の沢登りでした。数日前まで降り続いている長雨で沢が増水して開催が危ぶまれていたのですが、前日からの様子で OK となり予定通り行いました。午前中までの暑さを忘れさせてくれる涼水でした。

◆表彰式・懇親会

まずは個人女子の部、個人男子の部、そしてエキシビションの顧問の部が発表され、それぞれに表彰状・メダルが贈られました。そして最後に学校対抗の部が発表され、今年の優勝校「総和工業高等学校」に優勝カップが贈られました。

その後は食堂に移動しての懇親会となりました。協賛の地元企業のヤスダヨーグルト提供の飲み物、コカコーラよりの清涼水が配られ、そして参加賞のスクイズボトルやクーラーボックスなどが抽選で順次配されました。

◆これから

ARDF 大会としては、J A R L 主催の全日本大会に次ぐ規模に成長しました。参加校も北は秋田から南は宮崎まで、名実ともに「全国」というものとなりました。

大会の位置づけとしましては、JARL の全日本が「国体」とすれば、この全国高校大会は「インターハイ」といったものとして定着させ、更には野球の甲子園、ラグビーの花園のように「ARDF の阿賀野」となり、多くの高校生が目標とする大会として継続させていく予定です。

また高校生となるとどうしても初中級者が中心となりますので、次回はそのことに十分配慮し、ルールや競技のノウハウなどを取り入れた講習会も組み入れて行きたいと考えています。

【第4回全国高等学校A R D F 競技大会 計画について】

月 日 平成19年7月28日（土）～7月30日（月）
協 賛 情報通信月間推進協議会 <http://www.jtgkn.com>
宿 泊 新潟県阿賀野市畠江23「五頭連邦少年自然の家」（予定）
内 容 <http://zenshojiren.jp/hp067.html>
• 144M 帯競技
• 3.5M 帯練習会（ミニ大会）
• 7/29（日）の夕方から表彰式、交換会
• 7/30（月）は朝から解散